

放送人の会

No.84

2019.6.7

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel & fax 03-3221-0019 Mail info@hosojin.jp

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉

編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、

菅野高至 (HP担当)、逸見京子、前川英樹、松尾羊一

事務局 千葉邦彦 須齋恵美子

「放送人の証言」をあらためて考えた

放送人の会 会長 今野 勉

ことしの放送人グランプリ贈賞式には、会員の皆さんの参加が昨年より多く、用意した椅子はほぼ埋めつくされた。

その会員に向かって、グランプリを受賞した脚本家の北川悦吏子さんがこう挨拶した。

「子供の頃、私は、毎晩のようにテレビドラマを見て育ちました。今の私があるのは、そのおかげです。もしかしたら、私の大好きだったドラマを作った方がこの会場にいらっしやるのかもしれない」

そう言って北川さんは、かつて見たテレビドラマのタイトルを十ほど挙げてみせた。

最初に挙げたのが「モッキンポット師の後始末」だった。最後が「お荷物小荷物」だった。

「時間ですよ」も「キイハンター」もあった。

子供の頃には、ドラマの作り手のことなど考えもしなかったであろう。脚本家になって、

ドラマにはプロデューサーだのディレクターだのという作り手がいることが解った。子供の北川さんにとって彼らは無名の人だった。

あのドラマを作っていたのは誰だったのだろうか。放送人の会の贈賞式に行けば、その作り手に会えるかもしれない、と北川さんは考えたのだ。

テレビドラマは記憶の中に生きている

「モッキンポット師の後始末」という言葉

ひさしの青春小説のタイトルだ。私も、井上ひさしのその小説を原作にしてテレビドラマを演出したことがある。が、タイトルは別だった。

私の演出したドラマとは別に原作通りのドラマが放送されていたのだろう、と私は考えた。念のため、式後の懇親会で北川さんに尋ねてみた。答えはこうだった。

「ドラマのタイトルは原作とは違っていました。井上ひさし原作のドラマはこのドラマだけだったと思います」

「主演は誰でした？」

「石坂浩二さんでした」

それが決め手だった。井上ひさし原作、主演が石坂浩二のテレビドラマは、テレビマンユニオンというプロダクションを作つて間もない頃の私の演出したものに違いなかった。

考えてみれば、放送以来、四十年以上過ぎて

いるはずだが、その間、一度たりともそのドラマの話をお私にした者はいなかったし、どこかに書かれたこともなかった。私自身、ドラマのタイトルさえ忘れてしまっているのだ。

私の身体はテレビで出来ている

調べてみた。一九七三年(昭和四八年)、井上ひさしの「モッキンポット師の後始末」と

「家庭口論」を併せてドラマ化した「ボクのしあわせ」(フジテレビ、脚本・隆巴)がそれだった。

テレビ(の番組)は、ある日ある時のために作られ、放送されれば消えてしまう。それがいいんだ。これは、私の友人の脚本家佐々木守の口癖だった。

しかし、実際は、テレビは、視た人の記憶の中で生きのびているのだ。

贈賞式後の懇親会で、当会の会員でもある早稲田大学演劇博物館館長の岡室美奈子さんがこう語った。

「私も子供の頃テレビドラマを見て育ちました。最近、新聞のコラムに「私の身体はテレビで出来ている」と書いたくらいです」

作り手の証言の意味

もちろん、北川さんや岡室さんの子供の頃の記憶に残っているのは、テレビドラマの場面(映像)であつて、とうぜんのことながら作り手は入っていない。作り手は無名の存在なのだ。

そう思い当たると、今、私たちが進めつつある「放送人の証言」の刊行プロジェクトが新たな意味を持つてくるように私には思えてきた。人々の記憶に残っている番組の作り手たち、制作のPやD、技術・美術などのスタッフ、編成・営業、宣伝の任にあたった人など無数の、そして無名の作り手たちの証言は、一般の視聴者にとつても、面白いのではないか。放送の歴史を後輩に伝えていくためだけでなく、ふつうの視聴者のためにも、放送人の証言は必要なのだ、と、私は、新年度の出発にあたって、考えはじめている。

放送人グランプリ2019贈賞式



上段左から 福島広明氏 水高満氏 山下浩二氏 今野勉氏 次屋尚氏 黒崎博氏 西村与志木氏
 下段左から 西ヶ谷力哉氏 鯨井達徳氏 北川悦吏子氏 植田貴之氏 相田洋氏 下村幸子氏

放送人グランプリ2018

◆グランプリ◆

北川 悦吏子(脚本家) NHK連続テレビ小説「半分、青い。」

◆準グランプリ

「ボットンと一軒家」(ABC)

◆優秀賞

「森本毅郎・スタンバイ!」(TBSラジオ)

◆企画賞

「チコちゃんに叱られる!」(NHK)

◆奨励賞

下村幸子 NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー

◆特別賞

相田 洋 フリー・プロデューサー&ディレクター

〈第4回大山勝美賞〉

次屋 尚 日本テレビ 制作・情報局 統括プロデューサー

黒崎 博 NHK ドラマ番組部 チーフ・プロデューサー

放送人グランプリ2018の授賞式は5月18日(土)、午後3時から、千代田区紀尾井町千代田放送会館2階ホールで行われた。式の司会進行は露木茂氏(会長)。



以下は式次第の順にそつての記録である。

今野勉会長挨拶



私はこの賞についてあちこちで言ったり書いたりしていますが、この場で言ったことがないのでここで言います。

放送人グランプリの表彰式ほど受賞者と賞を出す側が親密な関係のものはありません。お互いの関係が近いということを私は誇らしく思っています。初めての方はこれからの表彰式をご覧になればわかると思いますが、この賞をこの人に何故贈るかの理由の説明が異常に長い。そして、それに応える受賞者の言葉がいつもいい。単に「ありがとうございます」ですまない。ここにいる会員のほとんどは放送についての専門家で、簡単なお礼の言葉では許さない。(笑)「ちゃんと喋れ！」という無言の圧力がある。それで、ちゃんとした言葉

がお互いに通い合う場になっていきます。表彰式では日本で一番素晴らしい式だと思います。そのことを光栄に思います。このことをこの場で初めて言いました。よろしくお願ひします。

大山勝美賞選考経過

八木康夫選考委員長



大山勝美賞の選考過程を申し上げます。

大山勝美賞は、大山勝美さんがドラマに優れた功績を残されているので、放送人グランプリの中でドラマ分野に限って、毎回プロデューサーとディレクターそれぞれ一人ずつを選んでいます。今回はディレクターとしてNHKの黒崎博さんをプロデューサーとして日本テレビの次屋尚さんを選びました。表彰理由については先ほど今野さんが言ったように長い文章があります。審査員は私八木と石橋冠さん、鶴橋康夫さん、五十嵐文郎さん、西村与志木さん、鈴木嘉一さんです。鈴木さんは現場制作の経験がありませんがドラマの専門家。他は長年ドラマを作ってきた同業者です。同業者だから一般の視聴者とドラマの見方は変わらないと思いますが、こまかいデテールに拘ったりした議論もありました。各委員からは昨年の作品を見てのいろんな方の名前があげられました。黒崎博さんについてはほぼ満場一致で、特に「未解決事件」のS・警察庁長官狙撃事件が評価されました。この事件

はこれまでいろんな形で扱われながら未解決のまま、黒崎さんは調べ直して脚本も書いて素晴らしいドラマを作りました。プロデューサーとしての次屋尚さんについては坂元裕二さんと組んでの「マザー」「ウーマン」などが韓国で大ヒット。凄く売り上げです。大山さんの、日本のドラマを外国にも広めたい、との念願に込めるものです。「anone」もヒット中。大山賞にもつともフィットした贈賞だと思います。

表彰・次屋尚氏

殺人事件の被害者と加害者になった少年を持つ、二人の母親の苦しみを真正面から描いた、「アイシテル〜海容〜」。脚本・坂元裕二演出・水田伸生とのトリオによる、「Mother」「Woman」「anone」の3部作など、シリアスなヒューマンドラマの秀作を次々と手がけてきました。又、トルコでのリメイク化を推進し、大ヒットを飛ばした「Mother」などのプロデュースをし、成功納められました。

その手腕を高く評価すると共に、今後のさらなる活躍に期待を込めて、この賞を贈ります。

【講評】鈴木嘉一委員



先ほど今野会長は挨拶が長いと言いましたが、表彰状の文句も異常に長い。こんなに長い文句は珍しいと思います。これを書いたのは私です。(笑)だからここで付け加えるこ

とはほとんどないのですが、一つ付け加えます。2005年に日テレで放送された「瑠璃の島」というドラマがあります。原作は森口輪沖縄を書き続けてきたドキュメンタリストで、離島の苦しみを書いたノンフィクションをもとにドラマが作られました。主役は成海璃子、鮮烈なデビューでした。そして盟友緒形拳が出演。私はこれを見つと見えて、スペシヤルも見ました。これを制作したのが次屋さんです。次屋さんは木下プロなど制作会社を経て2005年に日テレに入社、入社してすぐの仕事が「瑠璃の島」でした。それから「アイシテル〜海容〜」、私がアルファベット3部作と呼んでいる「anone」「mother」「woman」、貫くものは何かというと、離島の苦しみ、犯罪の被害者と加害者の心情など社会性の強いテーマをしっかりと扱ってきた上でヒューマンなドラマです。いまあげた中では「anone」は数字が上がらず局内の評価はきびしかった。3話になっても物語の展開が見えてこない。スリリングと言えるかもしれないが視聴者は我慢できずに離れていった。この作品のトルコでのリメイクが大ヒット、億単位の収入で日本での低視聴率はチャラどころかお釣りがきている。ということですので、日テレの上の方、次屋さんを大事にしてください。次屋さんこれからのいい番組を作ってください。

【受賞者の言葉】次屋尚氏

この度は本当にありがとうございます。この仕事を始めてかれこれ30年になります。学生時代に大山さんや八木さんに恋い焦がれ、憧れてこの業界に入り、ドラマ作り一本でやってきました。一昨日が私の誕生日で、54歳になりました。こんなめでたい賞を頂けるのはまことに光栄であります。この賞は私一人

のものでなく、坂元裕一さん、監督の水田伸生先輩と一緒に作ってきた作品に対してのものとしたいと思います。



海外には意図せずに売れています。意図せずに、というのは、誤解が多いのですが、海外へは我々が作った映像ではなく、スクリプト・フォーマット権つまり脚本が海外に売れ、売れ続け、リメイクが続いている現象があります。それらの国でいま大ヒットしているドラマは実は日本のドラマだという認識が徐々に定着してきています。これを皮切りに韓国がリメイクし、先日はカンヌの映画祭でフランスに売れました。昨年はウクライナに売れました。日本のドラマの脚本がロシア圏、ヨーロッパに売れたのは初めてだと思います。こうして海外への展開は大山さんが望んでいたことで、今回の受賞になったのだと思います。

この賞は私ひとりではなく、坂元裕一さん、水田伸生さん、そして日本テレビの海外番組販売担当IDPの尽力の結果です。みなさんに本当に感謝する次第です。

今回印象的だったのは、八木さんから直接電話を貰ったことです。八木さんとは、脚本家の伴一彦さんの花火大会のパーティーで毎年お会いして話をするという縁で、私にとつて神様みたいな人ですが、その八木さんから「5月18日は暇ですか?」と電話で聞かれました。まことに光栄で放送人の会の大先輩に褒めていただけて感動致しました。

テレビはもうオールタイムメディアだといわれたいりますが、こうしてドラマが海外進出していくと、放送人の新しい目標が生まれている気がします。その方向に向かっている受賞を誇らしく思います。ありがとうございました。

表彰・黒崎博氏

俳優の演技の熟成を常に大切にし、それを簡潔な映像で綴る演出姿勢は、「火の魚」「メイド・イン・ジャパン」等、多くの秀作を生み出しました。更に昨年の「警察庁長官狙撃事件 容疑者Nと刑事の15年」では脚本も手掛け、容疑者と捜査官の攻防を息詰まる緊迫感で描き、ドラマとドキュメンタリーを見事に融合させました。その演出力を高く評価し、この賞を贈ります。

【講評】石橋冠氏

おめでとうございます。日テレの後輩の次屋くんもおめでとうございます。鈴木嘉一さんが白状したので私も白状しますが、長い賞状の文章を書きました。30回くらい書き直しました。長いと言われて書き直しているうちに訳が分からなくなりました。



黒崎くんは広島放送局に何年いましたか?

黒崎 2年間です。

石橋 その間に「帽子」と「火の魚」を作った。「火の魚」にはショックを受けた。原田芳雄に

すぐ電話して「きみ、こんなにうまい人だったんだ」と言つて怒られた。素晴らしい演技でした。同じ演出家として黒崎くんの演出にショックを受けたのは、銜いがないことです。俳優の芝居をきちんと撮る。倉本聰さんが「いい芝居を作つてそれを中継すればいい」と言いますが、その理想的なものが黒崎くんの演出だと思いました。

それで東京に戻つてきて「セカンドバージン」、朝ドラの「ひよっこ」、鎌田敏夫さんのホーンで「逃げる女」、とにかくやるもの全部独特の文体で銜いがなく、俳優がみんな素敵に見える。本当はもっと早くこの賞を貰うべき人だった。「火の魚」で日本中の賞を一人ですごちやつた。その後追いをするのはいやで今回になり、お渡しできました。

映画も撮っているんですね。「セカンドバージン」。撮つて面白かった?

黒崎 恐ろしかったです。

石橋 何が恐ろしかった?

黒崎 見てもらい方がまるで違うので…

石橋 テレビのいろんな人が映画を撮るようになって、今日は杉田成道氏も来ているけど、やっぱり視聴率より興行成績は怖いと言つていますね。がんばつてください。今日はおめでとうございました。

【受賞者の言葉】黒崎博氏



このような賞を頂くことができて感激して

おります。ありがとうございました。

私も八木さんからお電話を頂いて、飛び上がりました。取材中で外にいる時電話を受けたのですが、光栄なことだと思ひ電話を受けた時の状況を忘れずにいます。

昨年、NHKスペシャル「未解決事件」を担当しました。私は入局して30年経つて初めてこのNスペースの枠を担当しました。この枠をどのように見られているのか、事実を伝えることを期待され、どこまで深く切り込んでいくかを問われていると、大変緊張しました。

まずNスペース担当者から連絡があり「今、ある事件を調べている。警察庁長官を狙撃した男だ。その男は狙撃事件では無罪放免となり、いま89歳で岐阜の刑務所で健在である。ドキュメントのチームはその男と30通近い書簡のやりとりをしている」とのことです。私はその書簡を受け取り、1通1通読んで行きました。そこには、自分が長官を狙撃したということが、あたかもドラマのワンシーンのように克明に書かれています。かつ、警察が何故自分を捕まえることができないかを、あざ笑うかのように批判し、国家への非難が滔々と述べられている。これがほんとうだとしたら、面白い、恐ろしいことだと思いました。この男はこれまで表に全く浮上することなく、逮捕されることもなく、真実は握りつぶされている。公安と刑事部のパワーバランスの中でこの男の存在は消えかかっている。これは絶対

にやってみたい。やろうよ、と言つて、それから更に取材が動き始めました。一緒に取材をするチームは報道番組をいつも作っているチームで、警察庁につめて、現場の最前線で行っている記者たちで、中には刑事部担当、公安担当もいると初めて知りました。そんな人たちと喧々諤々、事実(彼らはファクトと言ふ)をどうやってフィクションに落とし込んで行く

か議論しながら脚本を書いて、見せると「本当にこれをやるのか」と怒り出す人もあれば、「これをやらなくてどうする」と言う記者もいました。そんな人たちのいろんな思惑、取材力とパワーの中で番組を作ってきました。成功したかどうかは置いて、こうして番組を作りながら「テレビって面白い」とつくづく思いました。多角的に、長官が狙撃された事件を20年前から継続的に取材している人もいる、私のように初めて事件に接した全く別の立場の人間もいる、そんな総合力で番組を作ったなあ、久々に、あるいは初めて感じました。そしてこれをちゃんと番組として電波にのせてくれる放送局がある。大事な事実が握りつぶされる組織がある。それはじぶんのところでもそうじゃないかと思って自分で脚本を書いたのですが、戦い終えてみるとこれはやはり私が所属しているNHKの中でできないことだったなあ、と思います。

放送したあと、映画屋さんたちから「このネタやりたかったんだよ」と何人にも言われました。確かにネタとして面白い。しかしテレビ局のチームワークがなければ作れなかっただろうと思います。

どうまとめていいかわかりませんが、こんな戦いの場を得ることができたこと、そして地味な番組だったのでこんな評価をしていただいたことに心から感謝しております。ありがとうございます。

渡辺美佐子さん挨拶

黒崎さん、次屋さんおめでとございませう。こうやって大山のことを思い出してください。思い出させてくださる5月は嬉しい月でございます。皆さんが大山のことを話してください。その話を聞いて、そんなにいい放送人だったのか、もう少し大事にしてあげればよかったと

思います。大山がなくなつて5年になります。今日出かけるまえに写真に向かって「行ってくるね」と挨拶して出てきました。こんな機会を与えてくださって、放送人の会の皆さん、今野さん、八木さん、石橋冠さん、ありがとうございます。



大山は晩年、「若い人がテレビでどんどんいい仕事をしてくれるといいな」と言っておりました。今日お二人が受賞なさったことを大山は大変喜んでいと思います。今日は皆さんお集まりいただいてありがとうございます。

放送人グランプリ選考経過

西村与志木選考委員長



放送人グランプリはパート1とパート2があり、いまパート1の大山勝美賞の受賞式が終わりました。これからパート2の放送人グランプリの授賞式です。

今年、放送人グランプリ2019ですが、今回18回目です。昨年18歳は大人で、このグランプリの歴代受賞一覧を見ますと錚々たる名前が並び、立派な大人になったと思えますが、

今年も錚々たる名前がそろいました。

選考経過を申し上げますと、今年1月25日に下馬評座談会を開催しました。会員の有志が集まってこの1年の放送についてあれこれ話します。その結果を2月の会報に掲載し、会報の郵送と一緒に推薦用紙を届けます。会員の方は会報の記事を参考にしながら、ご自分のご覧になった番組の中からこれと思うものを推薦していただきます。今年は40通の推薦投票がありました。それをベースに3月28日に選考委員会を開きました。そこで、これから発表するグランプリを初めとする各賞が決まり、そのあと理事会で承認されて決定に至っております。つまり放送人の会会員の皆さんのお力のおかげでここまで来ておりました。受賞者の皆さんに受け取っていただくことが放送人グランプリのエネルギーマンになっていきます。これから贈賞を行います。よろしくお願ひします。

特別賞 相田洋氏

あなたの『50年目の乗船名簿』4部作

は、独立独立のジャーナリズム魂と強靱な人間探求心が、半世紀の歳月をかけて追跡した、南米移民の一人の人生を巡る稀有な大河ドキュメンタリーであり、放送史上にも残る成果の一つです。見事なライフワークを讃えらるるに、同輩・後進を問わず範となる、年齢録への旺盛な気迫と意欲に敬意を表し、この賞を贈ります。

【講評】鈴木典之委員

「乗船名簿」シリーズ第一弾「南米移民船」あるぜんちな丸の巻の放送は50年前、当時としては不可能を可能にした冒険的な番組で衝撃的でした。その後10年毎に入植者の現地取材番組が続いて、「伝説」化していま

した。そのせいか「50年目の総集編」は今更ほめても格好悪い」と誰もが遠慮したのか、反響が静かすぎました。しかし「放送人の会」では多くのメンバーが注目しました。なぜか？



それは50年、半世紀も人の営みの歳月を重層的に表現することで、この前例のない大作は初めて普遍的な「人間賛歌」の大河ドキュメンタリーの姿に変身したからです。移民群像の見事な「人生の叙事詩」です。

相田さん独特の手法、インタビュ重視と作り手のモノローグ形式の語りで、ありのままの嘘のない人間の在りようを視聴者の頭でなくハートに直に訴える、その程の良さがこの総集編の群像の立体化で生きて、「ああ、そうだったのか」と観る者は納得し、感動します。相田さんの「ライフワーク」で、放送史に残る成果です。

相田さんは83歳、しかし持ち前の独立独立の気概は今も盛んで、フリーなドキュメンタリストとして昨年も一昨年も話題作を発表、伝説男の本領を發揮。我々OB同輩にとっても、更にいえば日本の放送ジャーナリズムの在り方を考える上でも、得難いお手本です。特別賞の半分はそのことへの我々の敬意の証しです。

【受賞者の言葉】相田洋氏

ちゃんとした言葉を用意しろ、と言われた

のですが、ちゃんとした言葉を考えても5分と覚えてられないので、紙に書いてきました。これを読みます。



放送人として同業の皆様からこのような賞をいただくことを誇りに思い、人生の最後にこのような句読点を打てることを光栄に思っています。現役生涯を目指してまいりました私の職人魂を褒められたと思い、何よりもまして嬉しく思っています。

私をここに導いてくださった方々にお礼をこれから申し上げます。まずはカメラマンの益子広司さん、「あるぜんちな丸」の乗船取材に始まり、7年目、10年目、20年目、31年目の5作品を撮ってくださいました。私は駆け出し時代から益子さんの現場の作法を学び、厳しい指摘と褒めどころが育てられました。現在の次にプロデューサーの矢吹秀秀さん。現在の厳しい制作環境のもとで、彼のようにさまざまな知恵を出し、通していただければ、「50年目の乗船名簿」はできなかったと考えています。

そして私を2ヶ月間の南米取材に連れて行ってください、帰国後も最後まで助けてくれた孫のような年齢の若きパートナー山浦明人さん、そして撮影スタッフの皆さん。ちなみに山浦さんの年齢は32歳、私が初めて「あるぜんち

な丸」に乗船したのも32歳でした。南米取材のツアーでは撮影スタッフの皆さん、そして山浦さんは私がロケ車から降りるときは手を差し伸べ、体を支えてくれる。街を歩くと「相田さん、そこは段差があります」と気配りし、日中はやたらに「水を飲んでください」と促し、長距離ドライブでは「相田さんそろそろいい時間になりますから、次のドライブインでオシッコタイムにしましょう」など大変気を使ってくれます。排尿期間が短くなっている私にはこれが何よりありがたかった。おかげさまで、番組放送後、知人友人からかかってきた電話はすべて、番組のことはそこのけで「お前82歳で元気なあ」でした。

最後に心からお礼を申し上げたいのは、記者の鈴木嘉一さんです。私はまだ若かったころから私の仕事に関心を持ってくださり、励ましてくれました。今回の番組も鈴木さんの強い助言がなかったらその気にならなかったかもしれません。鈴木さんは会うたびに「この番組はあなたが個人的にやるのかやらないのかという問題ではない。放送に関わる者の責務です」と説得、けしかけられました。

今回の受賞のおかげでしょうか「50年目の乗船名簿」90分版の前編、中編、後編の3本が、BSプレミアムで放送されることになりました。そればかりか、NHK総合放送のNHKスペシャルでの放送も決まりました。ただし放送時間が1時間。前中後合わせて4時間半の中身を1時間に再編集しなければなりません。今、その作業を続けているところです。まさに職人技が試される挑戦だと思っています。放送は6月22日(土) 21時から。私にとって最後の試練になりそうです。このような試練につなげてくださった皆さんに、本当にありがとうございます。

奨励賞 下村幸子氏

下村幸子さんは、この一年、国が進める患者の在宅医療とその課題を探ってカメラを回しました。そこには訪問医療に当たる医師と病院の課題、病人を日常看護する家族の問題など、具体的な課題が改めて見えてきます。下村さんは、人間誰しも直面する死に際の医療に光を当て、そこに展開される人間模様を見事に描いた手腕を表し、この賞を贈ります。

【講評】河野尚行委員



下村幸子さんの番組は終末期の人々のいろんなケースをわれわれに示してくれました。人間の死に際にはその人の人生がある。

全旨の娘を一人残して死んで行く肺がんを病んだ老人に感動しました。最近は何の政策で病院に長いこと入院していらなくなかった長患いをしてても病院にいられない。そうすると介護施設に入るか、昔のように自宅で看病してもらえない。在宅の医療の重要性がますます強調される時代です。この番組で肺がんを病む老人の家を訪ねて患者の様子をみるお医者さんは昨年80歳になった森陽外の孫で、若いころは東大病院の外科医として著しく活躍された方ですが、年取ってから埼玉県新座市の在宅医療を自ら買って出て、終末期の患者に総合医としてつきあっています。病状、病気の進行具合を話すのは患者である

お父さんに対してでなく、健気にお父さんの面倒をみている全旨の娘に対してです。患者の父親に対してはもっぱら庭の柿の熟し具合と季節の移ろいについて話している。あまり広くない庭に百匁柿が1本ある。身動きできない患者は医者「柿が熟れたら挽いで食べさせてくれ」と言う。その柿が熟れるまえにこの老人は離別を迎えます。その人生の終焉の光景が実に感動的です。それを一人で撮影した下村さんのカメラも実に見事なものでした。

私はかなり能天気な男ですが、この番組をみて、自分の人生の終わりがどうなるのかなとしばしば考えてしまいました。「在宅死」死に際の医療」200日の記録」をご覧になってない方はNHKオンデマンドで見られます。上下1時間50分の大作ですが、是非ご覧ください。おめでとございます。

【受賞者の言葉】下村幸子氏



この度は栄えある賞をいただきまして本当にありがとうございます。

放送人の放送人による放送人のための賞と伺っております。放送のプロの方に私たちの番組が評価されたことを本当に嬉しく思います。

私はこの世界に入って30年になります。その間いろんな方に助けていただきました。最初に新人としてたずさわったのは釣子番組で

す。「日本釣り紀行」という番組で、まず、釣り人に釣ってもらうことに夢中になって、急流に釣り人を追い込み、ついにはその人を急流に流してしまふ大失態を演じました。その時先輩に「釣り番組は釣れないときが面白い」と教えてもらいました。

そこそこの使い物になるディレクターになってきたころ、相田洋さんの番組にお手伝いに入りました。「乗船名簿31年目」で2カ月間、相田さんと益子カメラマンとブラジル、アルゼンチンを旅しました。印象的だったのは相田さんと益子さんの信頼関係で、相田さんが言葉にしなくても益子さんはすべてわかっている、二人の丁々発止が心に残っています。ブラジルの移民の方は相田さん、益子カメラマンが来るのを心待ちにしている、生きがいのなっていました。ドキュメンタリーは人間の絆でできているのだということを見せていただきました。

その後、ドキュメンタリーを中心とした美術番組「紀行番組、スタジオ生番組などをやり、2012年に初めて自分でカメラを回しました。沖縄の中部病院の救急医療の救急医たちの新人研修医の中に入ってカメラを回しましたが、取材に行く前に私の机の上に「カメラ取材入門」という本が置いてありました。それを置いていったのがこちらの福島ディレクターです。そこで初めてカメラをまわして50分の番組を制作しました。初めは足も手も緊張で震えていたのですが、何とかやりとげて皆さんに評価していただきました。放送人の会の賞はいただけませんでした。(笑)

そんな経験がすべて今回の賞につながっていると思います。

在死の番組を作ったのは、まず、綺麗ごとではない。いいことも悪いこともすべてを描こうと思いました。放送すると沢山の

お手紙を頂きました。目の見えない娘さんのことをふくめ、皆さん自分のこととしてとらえてくださったっていました。それが本当に嬉しかった。毎日カメラを回しながら緊張の連続でした。最後どうなるのか、どこで最期を迎えるのかを考えると残された時間を充実したものにしてくれると思います。素晴らしい機会を与えていただいて、また素晴らしい賞をいただいで、本当にありがとうございます。

ここで一つお知らせがございます。この番組が映画になり、9月の下旬渋谷のイメージフォーラムで公開になります。お時間がありませんら是非足を運んでください。

企画賞「チコちゃんに叱られる」

視聴者の好みも細分化され、もはや3世代揃って楽しめる番組は不可能かと、誰もが思っていたところへ、突如現れた5さいの女の子チコちゃんは、「ポーっと生きてんじやねーよ!」と、日本国民を打撃し目覚めさせてくれました。人形劇、着ぐるみというNHKの伝統に、CGという最先端の技術を融合させ、懐かしくも新しい、視聴者に愛される番組を企画したことに対し、この賞を贈ります。

【講師】松山珠美委員



「チコちゃん」は昨年一番テレビを騒がせた番組で、受賞は当然だと思います。放送人の会の方々もかなり高齢の方が多いのですが、「チ

コちゃん」を推しておられました。民放関連で企画されNHKの財力と(笑)力が結合して素晴らしい番組が生まれたと聞いています。最初はフジテレビに持ち込まれて断られたとの噂があります。本当かどうか教えてくださいます。フジテレビさんは「やすらぎの郷」につき大きな魚を逃がしたようですが、私たちも「チコちゃん」に叱られないよう、ポーっとしないで、この番組を楽しみます。皆さんも「チコちゃん」と頑張ってください。おめでとうございませう。

【受賞者の言葉】西ヶ谷力哉氏



私が夢中になって見ていた番組のプロデューサーの方々、大先輩の前でこんな賞をいただき、本当にありがとうございます。

まず、質問に答えます。諸説あるようですが、フジテレビとのことは基本的には事実ではありません。

この番組は共同テレビの小松純也Pと河井二郎Dの二人の企画から始まり、ここにいるNHK水高満と私西ヶ谷とプロダクション5社が関わって8チームを作り、自転車操業で2ヶ月に1回順番が回ってくるかたちで、必死に取材をし、制作を続けています。

岡村隆史さん、木村祐一さん、お名前は申し上げられませんが着ぐるみのチコちゃんの中に入ってらっしゃる方など素晴らしい才能に出会って1年間続けることができ、この

ありがたい賞をいただいたのだとあらためて思っております。

昨日、一昨日と放送があり、その一つのネタが磁石は何故くっつくかというテーマで、その中で竹輪が浮くという実験をやりました。これは東北大学で30年以上磁石を研究している先生が「子どもさんが磁石の面白さを知ってくださって竹輪が空中に浮きました。その後、かっぱ巻きも浮きました。そうしたこの番組のテーマに賛同して協力して下さる方々のお力があつての番組だと思います。

表彰状の中で嬉しいのは「3世代視聴」という言葉です。番組開始の当初は「ポーっと生きてんじやねーよ」とは何だ!とか、「ねえねえ岡村」とは何だ!とかの電話が沢山かかってきたのですが、それに耳をふさいで続けているうちに「おじいちゃん、おばあちゃんに薦められてみえます」という30代の女性の声が増えてきて、続けていてよかったと思っております。私はまだ若輩でテレビの仕事は20年くらいですが、お母さんと子どもと一緒にみている、おばあちゃんに薦められてお子さんが見ているところを想像できるのはほんとにしあわせだなあと思います。

私は相田さんの「電子立国」を見て放送局に憧れ、テレビに何ができるかを考えてきました。大事にしていることが二つあります。一つは家族の中で楽しむきっかけになって欲しい、もう一つは、僕たちが小学校のとき月曜日には「ドリフ見た?」が挨拶でしたが、そんな番組ができたらいな、と思つて続けてきました。皆さんのおかげでそんなことに近づけたのは幸せです。もし、明後日、月曜、お子さんたちが「竹輪って浮くんだよ。知ってる?」と言ってくれたらこんな嬉しいことはないと思つています。

子どもがこれだけ見ているならやはりちゃんとしたものを作る責任がある、責任はまず大きくないとスタッフ一同心して、頑張っていると思います。

【優秀賞】森本毅郎スタンバイ

1990年4月スタート以来30年、常に庶民感覚の目線を忘れない「聴く朝刊」は、朝のラジオ番組における金字塔です。ニュースに真正面から向き合い、コメントは直球勝負。取材の最前線で活躍する日替わりのコメントーターを巧みにリードしながら、森本さんが本物の情報とその見方を示すことで、聴いて得した気分になれる番組なのです。長きに渡りバランス感覚に優れた報道番組を放送し続ける功績を称え、この賞を贈ります。

【講評】三原治委員



今日はTBSラジオですが、かつて1960年代、70年代にTBSテレビが報道のTBS、ドラマのTBSと言われた時代がありました。今、ラジオはTBSの時代です。TBSラジオは首都圏で17年8カ月聴取率トップを続けています。放送人グランプリが始まって以来ずっとということになります。TBSが何故こんなに強いのか。その理由の一つが「森本毅郎スタンバイ」です。

聴取率調査がそれまで59歳までの調査対象を69歳までに広げたこともありますが、17年以上トップを続けるのは異常です。その原動力が「森本毅郎」です。朝6時半から8時半、通学通勤の時間帯で、サラリーマン、OL、学生などが朝刊を読む感覚、テレビの朝のニュースを見る感覚で「森本毅郎」を聞いている。

この番組は30年の長寿番組ですが、30年前はニッポン放送の「中年探偵団」が非常に強かった。「森本毅郎」はそれを追いかけて、最初は歯が立たなかったが4年目か5年目には追い抜き、トップに立っていた。私は「探偵団」の関係者として、「森本毅郎が来たよ」とじわじわ追い上げられた感覚を覚えています。

この番組の良さは、まず森本毅郎さんの存在感。ニュースキャスターとしても言うことがない。そして遠藤泰子さんのアナウンス力、そしてコメントーター、リポーターの力量など挙げるときりがありません。

ひとつだけ挙げますと、「朝刊読み比べ」のコーナーがあります。各社の新聞を読み比べるのですが、先日ゴーン被告が釈放された日は籠池裁判がありました。新聞各紙は一面トップも社会面も大見出しですべてゴーン。籠池の記事は社会面の片隅に小さく掲載されており、テレビのニュースでは5項目目くらい扱いです。森本毅郎さんは「何故この二つのニュースが同じ日なの？」と疑問を投げかけました。籠池のニュースを小さく扱うための工作、忖度があったのかどうか、どうもおかしい。森本さんはそこを平気でずばずば言う。それが魅力です。森本さんは政府だけでなく野党批判も厳しい。出身のNHKにたいしてもずばずば言う。そんな歯切れの良さが魅力です。

とにかく全体として素晴らしい手本とすべき朝の番組だと思います。おめでとうござい

ます。

【受賞者の言葉】鯨井達徳氏



今日はこのような素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございます。

森本毅郎さん、遠藤泰子さん、出演者の皆さん、そしてTBSラジオの一同がこの受賞を大変喜んでおります。

個人的には子どものころから見えてきた、テレビのニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、そして聞いてきたラジオを作られた先輩の方々、若輩の私を育ててくださった方がこの賞をくださったのは身に余る光栄です。ありがとうございます。

選評の文章が長いとのことでしたが、森本毅郎さんは「これは非常にいい選評だ。ラジオのことを本当によくわかってよく聞いてくださっている方が、とってつけた感じでなくちゃんと選んでくれたのだ。励みになる」と言い、私も非常に励みになると感じて、番組のホームページにあげました。一部では、あまりに良くてきている文章なので、内部の者が書いて渡したのではないかと疑惑の声もあったのですが、いま三原さんの話を聞いて、よくラジオを聴いていらっしやるのがわかりました。

30年続いていることが表彰された一部の理由だと思いますが、放送で30年になることを伝えると、多くのリスナーの方から励ましの電話を頂きました。「子供の頃母と聞いてい

たこの番組を今息子と聞いています」など、こんな言葉を聞き、賞をいただき、長く続けてきてよかったなと思います。

30年続けるという大きな変化があります。時代の変換点という言葉がありますが、もしかするとその変換点を越えてしまったのかもしれません。インターネットの普及でメディアの状況が変わり、情報の出し方受け止め方が変わった、営業の数字も変わった、などいろいろあるのですが、これからラジオをどうして行くか、ラジオのニュースをどうして行くかが問われていると思います。

森本さんは今年80になります。ですが、今でも4時に起きて、あるいは4時前から起きてBBCやCNを見ながらその日の放送のことを考えて、誰にも負けない放送をしなければいけないとスタッフに言っています。私たちスタッフもこの受賞を励みに森本さんを刺激し続け、いい放送を続けたいと思います。奇を衒うつもりはありません。ニュースは人権、民主主義、憲法を背骨に日々こつこつと出して行くものだと思います。これからも地道な作業になりますが、今日の受賞に恥じない放送を続ける所存です。その励みになる賞だと思えます。ありがとうございます。

準グランプリ 「ポツンと一軒家」

山奥にポツンとある一軒家。そこに住む人はどんな暮らしをしているのか。この端的明快なこの企画が、多くの視聴者を惹き付けました。険しい山道を行くスリルとサスペンス！そこに、地元の素朴な人情も加わって、まるで優れたドラマのようです。一軒家の主人たちはそれぞれのヒューマンストーリーと豊かなキャラクターの持ち主で、限界集落、古い、孤独死など厳しい現実を背負いながら

生きています。押しつけがましきのない、観る人に様々な思いを起させる奥深い一級品を創り出したスタッフ・キャストの努力を高く評価してこの賞を贈ります。

【講評】佐々木彰委員



私はテレビ東京の出身で、この番組はテレビ東企画？と言われるのですが、絶対にそれはありません。所ジョージさんや林修さんを使うことはテレビじゃない。企画の斬新さは凄いい。

一軒家にどんな人が住んでいるだろうという企画は1回なら成立するかもしれないが続けていけるのかと思いましたが、続けて、いろんな視聴者を取り込んで高い視聴率になりました。おめでどうございませす。

スタジオでのトークも素晴らしいのですが、出会った人たちが普通の庶民、自然体の人たちで、その人たちの生きざまが自然に伝わってくる。その人たちは背景に限界集落や老いやいろんなもの背負っているのですが、それを押しつけがましく声高に言うことはなく、逞しく自然に生きています。見ていて自然に共感を覚える。こんな歓脈があったのかと思いました。いろんな視聴者をテレビにつれもどしてくれたお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

【受賞者の言葉】植田貴之氏



こういう格式ある賞をいただきありがとうございます。私もABCのバラエティー班もこんな格式ある賞には縁がなかったので、初めお電話をいただいたときはこれは胡散臭い、詐欺じゃないか、と本当に思いました。それで本社に確認すると即座に「何を言っているんだ。素晴らしい賞だ。貰いに行つてこい」と言われ、ここに参りました。ご迷惑をかけてすみません。

『ボツンと一軒家』は企画書が通ってきた番組ではありません。前番組が低視聴率に苦しみ、打ち切りが決まり、スタッフ一同どうしようかと悩んでいるとき、「最後に自分たちのやりたいことをやってみよう」と生まれたのがボツンと一軒家のアイデアです。前番組は打ち切りが決まっているので、ひまなディレクターもいる。それで「撮つてこい」と行つてもらいました。1週間後、撮ってきた映像のあら編をスタッフ3、40人で一緒にみたところ、全員が言葉も出さずに見入つてしまいました。これは何だろう。見たことのない映像だ。普通の日本の山道なのに今までテレビで見たことがないドキドキ感があり、そこに住んでいる人は実直に人生をおくられた方です。そんな方々の人生にはやはり素晴らしいものがある、その映像でまざまざと気づかされました。すぐ放送しようとなったのが番組を始めたきつかけです。

局の上司は「ボツンと一軒家」の企画書だけなら通してはなかったと言います。制作現場のプロが全頁面白いという映像はやはりつよいのだと再確認しました。これからは妥協せずには面白いものを追求しますが、取材対象の方をレスペクトしながらその人生をありのままに見せていきます。余計な演出で邪魔をしないように、しっかりと感動やなつかしさを伝える番組を作っていきます。

今日はありがとうございます。

◆グランプリ◆北川悦吏子氏

あなたは1990年代後半から2000年にかけて「あすなろ白書」や「ビューティフルライフ」などのヒット作を次々と世に出し、恋愛ドラマの名手と呼ばれました。そして2018年、NHK連続テレビ小説

「半分、青い。」では、1971年〜2011年までの40年間の時代を映し出した、優れた青春ドラマを作り上げ、難病と闘いながら執筆を続ける、作家・北川悦吏子の半生を投影した傑作となりました。その脚本力を高く評価し、グランプリを贈ります。

【講評】西村与志木選考委員長

北川悦吏子さんおめでとうございます。

私がドラマ班に入つてまず驚いたのは朝ドラの脚本の厚さです。15分×6本で90分1週間の、それが25冊か26冊ずっしり。これは脚本家の鉄人レースと言つていい大変な仕事です。朝ドラは今年で98作目、女性が主人公になって時代もの、現代ものといういろいろありますが、私にとって初めてみた朝ドラが「半分、青い」。このタイトルが持っているメッセージは、「主人公のすずめが小学校3年で耳が聞こえなくなる。そのとき雨が降つてきて、耳

で聞くと半分雨が降つていて半分晴れている」といった意味です。実は青い青春を見事に表現している。いつまでも青春です。



北川さんは「半分青い」の期間中2度入院されたと聞いています。それに耐えてこの作品を仕上げたことに今年度の放送人グランプリを差し上げるようになりました。おめでとうございます。

【受賞者の言葉】北川悦吏子氏

放送人の放送人による放送人のための賞をただ、大変嬉しいです。



今日はお礼を言いにきました。私は1961年生まれで、1964年にオリンピックがあつて、うちにテレビがきました。私が創作物に出会つたのはお母さんが読んでくれた絵本の次はテレビでした。私はテレビが好きでした。もしかしたら私が好きだったテレビを作った人がいるかもしれない、その人たちにお礼を

言いたいと思って、好きなテレビ番組をリストアップしてきました。読みあげていきますので担当なさっていた方があればありがとう知り合いや先輩が作っていたならその方に北川がお礼を言っていたと伝えてください、その方が亡くなっていたら天国に伝えて欲しいと思います。 案外普通なんです。

「キイハンター」「ザ・ガードマン」「モックンボット氏の後始末」「赤い疑惑」「NHK・少年ドラマシリーズ夏の転校生」「光る海」NHKの「事件」「わたしという他人」「飛び出せ青春」、ドラマではないのですが「デバゲバ90分」「時間ですよ」「寺内貫太郎一家」「木枯し紋次郎」「春ですもの」「不揃いの林檎たち」「問題の教師」「君たちは魚だ」「お荷物小荷物」です。

関係者の方いらっしゃいますね？「お荷物小荷物」は大好きだったんですが、調べてみると放送されたとき私は小学校3年生で、相当まかせていたんですね。非常に斬新なドラマで生きている熊ができて、檻に入れていたりとか、オンエアの最中に階段を転げ落ちて、「今のシーンもう1回」とやり直すのをそのまま放送したり、衝撃的でした。それを覚えていて、「半分、青い。」を書いたとき、風吹ジュンさんのナレーションで星野源さんの主題歌が流れる前に「わあ、星野源が始まる、喋らせてもらえない」とベタなチャレンジをしたのは、「お荷物小荷物」への憧れがあったせいだと思います。

つまり幼い時、小学校、中学校の時であった作品群で自分はできています。私はすずめちゃんと同じような田舎で育ったので、映画館に行く習慣はありませんでした。行くと山口百恵ちゃんの「伊豆の踊り子」をお友達と一緒にお弁当を持って、もったいないから3回みる。ですからテレビを夢中で見たのですが、これを作りたいとか考えたことはなく、作っ*

懇親会 スナッフ



* ている人がいることすら頭になかった。

野際陽子さんに会ったとき「キイハンター
見ていました」と言ったり、亡くなった樹木希
林さんに会ったとき「時間ですよ、みていまし
た」と言ったり、表に出ている人はわかるので
すが、作っている人は分かりません。酒井和歌
子主演の「春ですもの」は凄く好きで見たい
のですが、中村敏夫さんが作ったと知らなか
った。中村さんとは「あすなろ白書」を書いて
いたころ何度もお会いしているのですが、あ
のとき「春ですものを見ていました」と言え
たらどんなによかったらう、と思います。

私はテレビは実生活とはちがう憧れの世界
だと思っています。その世界に恩返しをした
い、恩返しができたらいいなと思っています。

「半分、青い。」は大変で、途中2回、脱稿
後に1回、都合3回入院しました。テレビは入
院患者にメディアの中で一番近いメディアだ
と感じます。病院では必ずNHK朝の連続テ
レビ小説がついている。私の書いたものはこ
こでオンエアされるのだと書く前から思っ
て、映画と違って出かなくても見られる。
弱い人というと語弊があるかもしれませんが
そんな人の支えになる。それはこれからもテ
レビのゆるぎない場所だと信じます。この賞
も「見ているよ」と言われたのかなと思います。
いろんな賞をいただきましたが、放送人によ
る賞は本当に嬉しかったです。

何にもない片田舎でテレビがあったから夢
を得ることができた。そしてここで賞をいた
だいています。最高です。



放送人グランプリ 2019(第18回)投票番組&人の一覧 (ジャンル別・放送順・敬称略)

◆グランプリ 2019

☆ドキュメンタリー

- 全ての報道番組・情報番組とそれらに携わる全ての放送人
- NHK・E TV特集(事務局)、毎週・金、23:00～・60分。多様な問題提起に敬意を表したい。
～E TV特集～
 - 「平和に生きる権利を求めて～恵庭と長沼事件と憲法」4/28
 - 「静かで、にぎやかな世界 手話で生きる子どもたち」5/26。中3女子6人・10年の記録。
撮影：中尾潤一、取材：茂木脩右、D：長嶋愛、P：浅田環、制作統括：村井晶子、堀川篤志
 - 「カノン ～家族のしらべ～」7/14。NHK水戸。特別養子縁組で生まれた家族に日々。
取材：佐藤真梨恵、D：安里愛美、P：西岡重徳、堀川篤志、矢吹寿秀。
 - 「えんとこの歌・寝たきり歌人 遠藤滋」7/28。介助の若者も育つ……。
D：伊勢恒一、制作：NEP、伊勢フィルム。

ーシリーズ・アメリカと被爆者ー

第1回「シュモーターを探して」8/4。1849年、住宅建設のリーダー、フロイド・シュモーター。

D・編集：鎌田恭彦、D：小越久美子、制作統括：野村直樹、高井孝彰、塩田純

第2回「赤い背中が残したもの～『NAGASAKI』の波紋～」8/11。作家、スーザン・サザード

D：渡部祐樹、P：山中賢一、塩田純、制作著作：NHK長崎

ーシリーズ・データで読み解く戦争の時代ー

第1回「自由はこうして奪われた～治安維持法10万人の記録～」

第2回「隠されたトラウマ～精神障害兵士8000人の記録～」8/25。

D・撮影：金本麻理子、CP：塩田純、太田宏一、NEP制作、制作著作：NHK、椿プロ。

⇒⇒長尺版。BS1スペシャル「隠された日本兵のトラウマ～陸軍病院8002人の“病床日誌”～(前後編)」11/25、22:00～・110分。

D・撮影編集：金本麻理子、取材：本田昂輝、中川秀文。

「ドヤ街と詩人とおっちゃんたち～釜ヶ崎芸術大学の日々～」10/13。

取材：藤井裕美、D・制作統括：伊藤雅裕、制作統括：梅原勇樹、高瀬雅之、制作：NHKエデュケーショナル、制作著作：NHK、千代田ラフト。

「原発事故 命を脅かした心の傷」2019/3/2。制作著作：NHK福島。

未来への不安がフラッシュ・フォワードして、被災者を苦しめ……やがて自死へ。

「誰が命を救うのか～緊急被ばく医療の闘い～」2019/3/9。

⇒⇒長尺版。BS1スペシャル、3/10、22:00～・110分。

「佐藤さんとサンくん～難民と歩むあかつきの村～」の制作者。11/3。D：松原翔、P：塩田純

「アイヌらしく人間らしく～北海道150年・家族の肖像」制作チーム。12/15。D：中田実里、P：玉村徹、制作：NHK札幌放送局

• NHKG「病院ラジオ」2018/8/9、22:00～・45分

• NHKスペシャル「ノモハン 責任なき戦い」2018/8/15、19:30～・73分。

• BS-TBS「報道1930」、2018/10/1～、毎週・月～金、19:30～・84分、

メインキャスター：松原耕二、コメンテーター：堤伸輔(月-木)、パトリック・ハーラン(金)

• NHKスペシャル「ロストフの14秒 日本vs.ベルギー 知られざる物語」2018/12/8、21:00～49分。

⇒⇒長尺版。BS1スペシャル「ロストフの死闘 日本vs.ベルギー 知られざる物語」2018/12/30、21:00～100分。

⇒⇒関連番組・BS1特別番組「激白！西野朗×岡田武史～サムライブルーの未来」2019/1/2、21:00～・99分。

• 岸本 晃 63歳。(株)プリズム代表取締役/東峰テレビ総合プロデューサー/NPO法人くまもと未来理事長/(一社)八百万人(やおよろずびと・住民ディレクターの全国ネットワーク)理事長

14年間の熊本県民テレビ在職中に「地域づくりの手法」としてのテレビに着目、住民が番組制作を経験することで総合的な企画力を培う「住民ディレクター」を提唱。「住民ディレクター養成講座」を核に、全国各地の社会活動、住民メディア、住民制作番組等をプロデュースしている。

☆教育・教養

• NHKEテレ/ワールド・プレミアム「にほんごであそぼ」のスタッフ、NHKエデュケーショナル

2003/4/7～、月-金、6:15～・10分、ワールド・プレミアム：月-金、17:01～、

☆ドラマ

- ・テレビ朝日「科捜研の女」
- ・中園ミホ NHK・大河ドラマ「西郷どん」の脚本
- ・綾瀬はるか 「精霊の守り人」NHK、「奥様は取り扱い注意」NTV、「義母と娘のブルース」TBS・2018/7/10～全10回。
- ・TBS・日曜劇場「下町ロケット」(原作：池井戸潤、脚本：丑尾健太郎)制作スタッフ一同、2018/10/14～12/23・54分×全11回+2019/1/2・21:00～135分
P：伊與田英徳、峠田 浩、D：福澤克雄、田中健太、青山貴洋
- ・NHKBS「盤上のアルファ」(原作：塩田武士、脚本：山岡潤平)2019/2/3～・49分×全4回

☆ラジオ番組

- ・TBSラジオ(編成)
- ・森本毅郎 遠藤泰子 TBSラジオ「森本毅郎スタンバイ」のパーソナリティーとして。
- ・ニッポン放送報道スペシャル「My Dream」2018/5/27、25：30～・60分。
- ・「My Dream」の制作スタッフ
P：上村貢聖(ニッポン放送)、D：森田耕次、構成：桜林美佐(フリー)
- ・TOKYOFM「村上RADIO」2018/8/5、19:00～55分、2ヶ月ごとに放送(計5回)中。

◆準グランプリ

☆ドキュメンタリー

- ・金本麻里子 ディレクター・プロデューサー。椿プロ・代表取締役
- ・メーテレドキュメントの制作グループ(P：村瀬史憲、D：依田恵美子)
「行ってみれば戦場～葬られたミサイル攻撃」2018/11/16、26：34～・62分。

☆ドラマ

- ・NTV「3年A組～今から皆さんは、人質です～」2019/1/6～、22:30～・55分×全10回
脚本：武藤将吾、CP：西憲彦、P：福井雄太、松本明子(AX-ON)、難波利昭(AX-ON)
D：小室直子、鈴木勇馬、水野格、出演：菅田将暉、永野芽郁、片寄涼太、川栄李奈

◆優秀賞

☆ドキュメンタリー

- ・NHKスペシャル「未解決事件File.07『警察庁長官狙撃事件～容疑者Nと刑事の15年』」2018/9/8、21:00～・90分
- ・NHKBS「イナサの吹く故郷で～仙台市荒浜14年目の記録～」2019/3/10、13:30～90分
制作：NHK仙台放送局

☆ドラマ

- ・野木亜紀子(脚本家) TBS「アンナチュラル」とNHK「フェイクニュース」の脚本。
- ・安藤サクラ 朝ドラ「まんぷく」のヒロイン役に。
- ・岡田将生 NHK「昭和元祿落語心中」の演技に。
- ・NHKG・ミステリースペシャル・3夜連続ドラマ「満願～第二夜『夜警』」
2018/8/15、22：00～・59分。原作：米澤徳信、脚本：大石哲也、CP：出水有三、中野尚之(AX-ON)、P：益岡正志、
D：榊英雄、制作・著作：NHKス、AX-ON
- ・NHKBS・プレミアムドラマ「盤上のアルファ」2019/2/3～、22:00～49分・全4回、
原作：塩田武士、脚本：山岡潤平、CP：佐野元彦、高橋練、D：岡田健、主演：玉木宏。

☆バラエティー

- ・テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」 毎週・火曜、20:54～・60分、25周年。
- ・NHKBS「球辞苑」2014年の特番から、シーズンオフ・不定期に、計46回放送。
野球にまつわる究極の辞典。構成：吉野宏、向山佳綱、D：井出雄一、片岡義就、財田正剛、
演出：中澤智有、P：石津多恵子、制作統括：嘉悦登、江刺一誠、制作：NEP、万作。

◆奨励賞

☆ドキュメンタリー

- ・NNNドキュメント「南京事件II～歴史修正を検証せよ～」5/13、24:55～、55分。

☆ドラマ

- ・横田 誠 東海テレビ・ドラマプロデューサー
CX系列『大人の土ドラ』で、一年の半分を、オリジナル作品で制作。
- ・NHKG・ドラマ10「透明なゆりかご」7/20～、22:00～44分×全10回。
原作：沢田×華、脚本：安達奈緒子、P：須崎岳、高橋練、制作：NEP、D：柴田岳志。
- ・NHKG・福岡発地域ドラマ「You May Dream」9/24、15:45～、75分。
原作・脚本：葉月けいこ、制作統括：一坊寺剛、取材：安藤大佑、高松信太郎、D：浜崎智史。

☆ラジオ番組

- ・オールナイトニッポン 50 周年 日本映画専門チャンネル開局 20 周年 特別企画ラジオドラマ「ストリッパー物語」2018/6/11、20:00～・110 分。
原作：つかこうへい、脚色：羽原大介、演出：杉田成道。74 歳にして、初めてのラジをドラマ！
- ・法政大学大学院石山恒貴研究室
「ラジオドキュメンタリー人材の育成と能力評価について」の研究成果に対して

◆特別賞

☆報道番組

- ・BSフジ「BSフジLIVE プライムニュース」2009 年 4 月 1 日～、月-金・20:00～・115 分

☆ドキュメンタリー

- ・信友直子（ドキュメンタリー・ディレクター）
映画「ぼけますから、よろしく願います。」2018/11/3～公開
1986 年から映像制作に携わり、フジテレビ「NONFIX」や「ザ・ノンフィクション」で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。
「青山世多加」「おっばいと東京タワー～私の乳がん日記」。他に、北朝鮮拉致・ひきこもり・若年認知症・ネットカフェ難民などの社会的なテーマから、アキバ系や草食男子などの生態という現代社会の一面を切り取ってきた。
- ・鈴木昭典（ドキュメンタリー・ディレクター）2019 年 1 月 21 日死去。89 歳。
1956 年大阪テレビ放送入社。インドネシア残留の旧日本兵のドキュメンタリー「ジャピンド」。
88 年にドキュメンタリー工房を設立。「日本国憲法を生んだ密室の 9 日間」。
18 年夏「核の記憶」。昭和のドキュメンタリー史に残る巨匠。

☆ドラマ

- ・「やすらぎの郷」の倉本聰 生涯現役 84 歳

☆バラエティー

- ・夏井いつき 俳人。エッセイスト。俳句の添削を通して、俳句の素晴らしさを伝える達人。
2013 年～、「プレバト!!」（毎日放送）の『才能査定ランキング』で俳句部門の査定を担当。

☆ラジオ番組

- ・浜村 淳（パーソナリティー、映画評論家）
MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」月-金、8:00～・90 分。45 周年。
- ・TBSラジオ「荻上キチのSESSION22」2013/4/1～、月-金、22:00～・115 分。
ポジティブな改善策の提案（ポジ出し）で、新しい時代のニュース情報番組を目指す。
3 月 13 日のピエール瀧逮捕では、改めて『薬物報道ガイドライン』の大切さを訴えた。

◆大山勝美賞

- ・『大山勝美 新人賞』を作って、20 代のディレクター・プロデューサーを応援しよう！
松本花奈（まつもとはな）慶応大学在学中。
CX「平成物語」60 分×全 5 回、「平成物語 2」30 分×全 5 回。
テレビ東京・Netflix『恋のツキ』30 分・4 話と 9 話。

2019 年度放送人の会総会

2019 年度の放送人の会総会、第 6 期社員総会は 5 月 18 日（土）、午後 12 時 30 分から、千代田放送会館 2 階ホールで開催された。社員総数 246 名、出席 154 名（委任状を含む）で会は成立、監事から会の運営は適正であるとの監査報告を受け、事業報告、2018 年度決算、2019 年度予算、運営体制を承認した。予算、決算の対比は左記の表の通り。
事業報告の概要は以下の通り。

1、「第 18 回 日韓中テレビ制作者フォーラム」光州大会

作品テーマ「より良い共同体づくりに向けた市民運動」。日韓中の制作者やメディア研究者が活発な意見交換を行った。光州事件の保存と展示に向き合う光州市関係者の真摯な態度に感銘を受けた。

尚、昨年度会の総会で、「2019 年中国大会を以って放送人の会の参加は終了する」とことが承認されている。光州大会ではフォーラムの今後のあり方について意見交換があったが具体的な方向は見出されていない。5 月中国で行われる第 19 回大会の準備会議で更に詰めた議論をする予定。

2、放送人グランプリ

第 17 回放送人グランプリ各賞および第 4 回大山勝美賞の贈賞。

3、名作の舞台裏（放送番組センターと共催）
NHK 大河ドラマ「花の乱」、テレビ朝日「科捜研の女」

4、人気番組メモリー

「今日の料理」（NHK）

5、放送人の世界（上智大学メディア・ジャーナリズム研究所と共催）

「右田千代」と作品。現役は初めて。か

- つ女性ディレクターも初めて。
- 6、放送人の証言
 - 北山章之助、重村一、小林由紀子
 - ・放送100年記念(放送人の証言)出版プロジェクト)がスタート。
- 7、ドキュメンタリーワールド：今期は実施せず。
- 8、放送人句会
 - 会員交流の場として隔月開催。作品は会報に掲載。兼題に放送業界用語が出る。
- 9、ラジオプロジェクト
 - 「ラジオ聞き酒の会」を発売に行うほか、交流会を開催
- 10、広報

会報を3回発行(①総会/放送人グランプリ特集、②日韓中テレビ制作者フォーラム九州大会特集、③新年号+放送人グランプリ下馬評座談会)

- ・ホームページ タイムリーに更新し、活性化を図っている。
- ・フェイスブック イベントの告知を中心に適宜アップ。

11、総務

会の活動全般を把握し、運営の円滑化に動いている。インターネット、メール環境を一新し業務の円滑化、セキュリティの確保、情報発信の強化を図った。

○会の活動は多岐に亘っている。今後も各活

動に多くの会員の積極的な参加を期待する。

○会報及び理事会議事録に活動状況を詳しく掲載している。是非お読みいただきたい

新任理事及び監事

理事 石橋映理、石橋冠、伊藤雅浩

小川和之、加賀美幸子、柏木登、金平茂紀、河島厚徳、北村充史、工藤英博、隈部紀生、小池勝次郎、近藤邦勝、今野勉、佐々木彰、新山賢治、菅野高至、鈴木典之、鈴木嘉一、曾根英二、田中秋夫、千葉邦彦、永田俊和、西村与志木、林 健嗣、深尾隆一、逸見京子、

堀川とんこう、前川英樹、三原治、村ト雅通、八木康夫、矢島良彰、吉田賢策、渡辺紘史

監事 河野尚行、木原毅

* 傍線があるのは新任。

退任理事 板谷駿一、加藤滋紀、桜井均、山田良明

理事会で会長に今野勉氏の留任、会長に不都合があった時の代行役員に前川英樹、堀川とんこう、渡辺紘史の3氏の選任を承認し、特別顧問に松尾羊一を会長から委嘱した。

新任理事就任挨拶

之

小川和

小川和之と申します。私、実は新参者で、昨年11月初めて出席しました。出身はNHKですが、その後定年退職して、東京タワーで参与という仕事をしています。どんなお役に立つかわかりませんが、皆さんのご協力を得てがんばりたいと思います。よろしくおねがいします。

柏木登

私は入会して3年になります。日本テレビの大先輩の石橋冠さん、札幌テレビの林健嗣さんに強く勧められて入会しました。

私は島根県松江市の生まれ育ちで、東京に出て、縁あって佐渡の和太鼓グループ鬼太鼓座の東京事務所アルバイトをしております。昔、TBSの前にフライドチキンの店があり、そのビルの2階にデスクKという小谷正一さんの事務所があり、その一角に机一つ置き、応援をさせていただいて、学生をやりがらやっております。今でこそ和太鼓はメジャーになりましたが、ボストンマラソンを走って、そのあと大太鼓を叩くといったケレン

2018年度・19年度予算収支対比

科目	2018年度予算	実績	2019年度予算
1、経常増減の部			
(1)経常収益			
①受取年会費	2,550,000	2,375,000	2,550,000
②	3,269,430	3,912,931	
受取寄付金	150,000	148,000	150,000
(大山基金) 振替額			
ガナプリ+日韓中	1,450,000	1,813,615	1,450,000
一般管理費 30%振替	1,169,430	1,250,106	1,169,430
一般管理費給与B分	500,000	701,210	500,000
③事業収入	2,680,000	2,680,000	
放送番組センター共同事業費	1,800,000	1,800,000	1,800,000
イベント収入	180,000	180,000	180,000
放送文化基金助成(「証言」)	700,000	700,000	700,000
経常収益計	8,499,430	8,967,931	8,449,430
(2)経常費用			
①事業費	3,500,000	3,596,312	3,500,000
名作の舞台裏	600,000	702,066	600,000
人気番組メモリー	300,000	296,240	300,000
放送人の世界	100,000	116,140	100,000
ドキュメンタリー・ワールド	100,000	0	100,000
放送人の証言	750,000	521,298	100,000
放送人グランプリ(大山口座)	1,050,000	1,086,067	1,050,000
ラジオ・プロジェクト	60,000	702,066	60,000
放送人句会	90,000	103,233	90,000
日韓中フォーラム(大山口座)	400,000	721,268	400,000
②一般管理費	4,398,100	4,921,078	4,398,500
給料手当A	1,100,000	1,048,450	1,100,000
給料手当B	500,000	576,150	500,000
諸謝金	150,000	203,568	200,000
事務所賃貸料	863,100	863,100	863,100
通信費	300,000	338,161	300,000
旅費交通費	400,000	515,629	400,000
会議費	100,000	69,120	50,000
印刷費	160,000	209,666	160,000
広告宣伝費(会報作成関係)	220,000	481,567	220,000
事務用品費	50,000	128,577	
消耗品費	25,000	0	75,000
交際費	50,000	35,000	50,000
支払手数料等	40,000	31,710	40,000
支払報酬	440,000	420,000	440,000
租税公課・雑費	0	400	400
経常費用計	7,898,100	8,517,390	
当期経常増減額	601,330	450,541	

味のある名前を出すことをやりました。

高校時代から放送に興味がありましたが、田舎もので縁はないと思っておりましたが、小谷正一さんを見てみると、そこに入力する各業界のいろんな方々があり、放送の世界へ行きたいと強く思いました。

52年目テレ入社で、最初は当時看板番組の「木曜スペシャル」。テレビマンユニオンと組んでの「アメリカ横断ウルトラクイズ」、「ゼロ戦発見」など健康なケレン味のあるスペシャルをやってきました。関わった番組でいまでも残っているのは「鉄腕ダッシュ」と「法律相談所」で、5代目くらいのプロデューサーがやっています。

当時のことを思い出したりしますが、厳しい先輩たちには、後に続く者への愛情と励ましがあつたのだと思ひ返しています。今回理事を引き受けるにあたっては、後に続くものへの愛情と励ましをもつてやりたいと思ひます。どうかよろしくご指導ください。

徳

河邑厚

学校を出てからずっとNHKで制作局の仕事が続けられました。40歳ぐらいから普通の人は組織の仕事、ラインの仕事が増えてくるのですが、私はわがままを通して、定年まで現場で企画し、取材し、制作する「ディレクター」として全うしました。定年後は学校で教えることもありましたが、いまは何の仕事もないまま、年金を支えに生きていて、フリーで何か映画を撮りました。

人生100年の時代に私が尊敬できて、こんな生き方をしたいと思う人を何人かドキュメンタリーにしました。いま上映しているのは、昨年2月に亡くなった金子兜太さん、三天地悠々〜兜太俳句の一本道〜。都内各地で

劇場上映ではなく上映イベントの形でゲストを呼び、話と映画のささやかな手作りの上映会を続けています。近々では5月29日、後樂園に近いシビックホールで上映します。放送人の会にも句会があり、俳句には関心のある方があると思います。

その前に作ったのが日本ジャーナリストの伝説的な人物、むのたけじさんと日本女性報道カメラマン第1号の笹本恒子さん。この二人を「笑う101歳」と題する映画にして2年前から上映してきました。むのたけじさんは亡くなりましたが、笹本さんは化け物のような方で105歳でまだお元気です。つまり、100歳まで元気で生きてきた人を手本にして自分も元気でいたいと映画を撮っています。

桜井均さんはNHKの教養部の2年先輩ですが、彼から電話がかかってくる。「俺は辞めるから、やりませんか」と言われ、ことわり続けたのですが、何かお役にたつことがあれば、とひきうけました。非常に腰が引けた感じでお受けしていますので、多くのことはできませんが、よろしくお願ひします。

新山賢治

新山と書き、しんやまと読みます。昭和52年にNHKに入局し、報道ドキュメンタリー系のディレクター、プロデューサーとして、報道局、制作局を渡り歩いてきました。現在も、個人事業主として番組作りに励んでいます。今回、尊敬する放送人の板谷駿一氏、河野尚行氏の薦めで任をお引き受けしました。

放送人は常に「経営」と「制作」の微妙な息づかいの中で、悪戦苦闘を要求されてきました。私自身、かつて経営の一端に身を置きながら、そのことを痛感してきました。そのとき、最も大切な指針を与えてくれたのがテレビ創生期を駆け抜けた先輩達がどんな環境であれ、

常に「テレビとは何か？」を自問し続けた姿です。

「放送と通信の融合」など伝送路優先で多様性が語られ放送の危機が叫ばれる昨今ですが、どんな伝送路であろうとかまわさない、いかに新しいテーマに挑むか、いかに多彩なコンテンツを生み出すか、その一点の覚悟がある限り、「放送人」は輝き続けると信じています。「テレビは常に青春でなければならぬ」先輩達の言葉を反芻しながら、後輩達が腹を括って制作できるように支援する役割を果たしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

新任監事就任挨拶

木原 毅

昨夏に「放送人の会」に加えて頂いたばかりの若造ですが、よろしくお願ひします。留任される河野監事の足を引くことがないように、とそればかりを念じております。改めて簡単な自己紹介ですが、一九五五年生まれ、TBS出身でもにもラジオの現場を駆け回っていました。最後のほうはデジタル系のいわゆるIT業界に近いところで仕事をしていました。が、そつちのほうはアマチュアの域を出ることはありませんでした。二〇一五年に満期終了してからの仕事は「郷里の妻家の後片付け」。もっぱら「Ivee」や「Radio」を堪能しながら日々過ごしております。

放送の使命のひとつはファクトを積み重ねてゆくこと、監事のつとめも先輩の皆さん方の活動のファクトを記録してゆくことだと思いつつ任に当たります。

理事退任挨拶

加藤 滋

6年間理事を務めまして、今回退任することになりました。実は、私は昨年、喉の癌の手術で声帯まで取り、声は出ないのですが、この器械（電気式人口咽頭）を使って話ができるようになりました。お聞き苦しいことをお許しください。

私はこの放送人の会の発足のときからの会員ですが、最初のうちは年会費を払うだけの活動はほとんどしない怠け者の会員でした。そのころは、この会は本当に長続きするのだろうかかと正直思っていました。何故ならこの会の収入は一人1万円の会費を200人が出すだけだから、年間200万円しかない。事務室を持ったりしたらほとんど活動できないのじゃないかと心配していたのですが、6年前理事になってよくなりました。皆の努力で放送番組センター、上智大学、その他いろんな機関と一緒にたつて大きな仕事が出来ていることに感心しました。それはいろんな方がこの会の中で努力されてきた結果です。これからもこの良き伝統を皆さんで継いでいければいいと思います。

こう言うと私は会を辞めるのではないかと思われるかもしれませんが、私は会員を続けたいです。癌の病状は転移や再発はなく、健康は一応維持していますが、手術の後遺症で問題は少し残っていますので、リハビリに力をいれたいと思ひ、理事を退任しましたが、皆さんと一緒にやれることは是非やりたいので、どうぞよろしくお願ひします。

座談会「ラジオ聞き酒の会を語る」

「放送人の会」ラジオプロジェクトは会員同士がラジオ界の話題を共有し交流を深める為に2017年の3月9日に第1回「ラジオ聞き酒の会」をスタートさせて3月末で満2年ほど経過しました。その間に開催した回数は11回となりました。そこで「聞き酒の会」の常連メンバーが集まっていたとき、総括を兼ねて座談会を行いました。

出席者は 高田宏、浮田周男、寒河江正、清水誠、永田俊和、田中秋夫 以上6人の皆さんです。

高田 (司会) 今日日は「ラジオ聞き酒の会」をスタートして2年が経過したことで、いつもと違って番組を聴かずに今後のラジオプロジェクトとラジオ聞き酒の会をどう展開するかを話し合いたい

浮田 2年前にラジオプロジェクトが「聞き酒の会」の活動を始めたのは良かった。ネーミングが良かった。放送人の会はTV関係者の活動が多いが、「聞き酒の会」がラジオプロジェクトの存在感を高めたと思う。この会も徐々に充実してきたと思っ。

特に昨年の「放送人グランプリ」に小林克也さんとオールナイト50周年の2つ賞を受賞したのは大きい。

ラジオプロジェクトの30人以上が名を連ねているがこの聞き酒の会にさらに多くの人が参加してもらえるように工夫していきたい。継続は力なりというが、皆が高齢化している

中でどう継続していくかを考えたい。幹事役の清水君にも大変な仕事、役割を担ってもらっているが、それを分担することも考えたい。

寒河江 私は同志社の新聞学科を出てラジオ関東に入社13年間、その後テレビ神奈川で40年以上仕事をしたが、全てラジオ関東時代のラジオの仕事が基礎になっている。テレビ神奈川時代に放送人の会の前会長だった大山勝美さんに誘われて放送人の会に入会した。

この「ラジオ聞き酒の会」は2回目から参加しているが、大変有意義な会だと思っっている。

今、ラジオ界は経営的に大変だという話を聴くことが多い、事実ラジオ日本の社長なんか聞くと苦しいという話を話していた。しかし、番組を聴いてみるとそれなりに良い番組を放送している。

ラジオは聴かれていないのではなくてインターネット時代になって若者たちはラジコやスマホなどで聴いていないのではないかと。聴取率調査にはその数字が出てこない。

別の話になりますが、ある医者が書いた本が出ていますが、例えばその著者をこの会に招いて話を聴くとか、NHKの職員で最近やめられて白鳳大学の先生になられた人やその学生たちを呼んでラジオとの接点を聴くということも考えられる。

お金をかけないで出来ることをやっていって、もっとこの会を放送人の会でアップグレードしていくことを考えたい。

生涯現役のつもりでなにかお役に立ちたいと思っっている。

高田 横浜の放送ライブラリーで「人気番組メモリー」でイルカさんや、つばいノリオさんたちを呼んで「オールナイトニッポン70年代」をやったことがあるけど、観客も沢山集まって内容も充実していた。この手のイベントを

ラジオプロジェクトでもっとやっていきたい。ただ残念なことに先日の「放送人グランプリ」の授賞式に活字をはじめ他のメディアが全然取材に来ていなかった。それだけラジオのニユースバリューが無いということなのか？

永田 そんなことは無いですよ。ラジオだけの問題ではない。「放送人の会」全体の問題で、先日の理事会でも広報の努力が必要だという話が出ていた。放送人の会自体を知らない人がいっぱいいる。今後の課題だ。

清水 この数年、日大芸術学部の放送学科でラジオの非常勤講師を務めているが、ラジオを志望する学生が減ってきている。今の若い人はラジオを持っていない。スマホのアプリを使ってラジオを楽しんでいる。今後ますますラジコの存在は大きくなると思っ。

田中 先ほどの話しにも出たようにラジオプロジェクトの活動は徐々に実を結んできている。今後もっと拡充させていく為にアイデアが必要だ。

そこで提案だが、ラジコの機能の一つに番組を友達とシェアするというのがある。

フェイスブックに登録している友人に聞いてもらいたい番組をネットで送る方法だ。「ラジオ聞き酒の会」は今まで一堂に集まって番組のCDを再生して聴いていたが、番組を聴く為に時間とらられて話す時間が少なくなってしまう。番組の内容によってはその場に馴染まないものもある。

ラジコのシェア機能を使えば誰もが発信者になれる。その為にはラジオプロジェクトのメンバーにはフェイスブックに登録してもらう必要がある。

さらに、その番組を聴いたメンバー同士が感想や意見をホームページ上に自由に書き込めるようにしたい。このホームページの提案は事務局との相談が必要だ。

(この提案に一同賛成)

座談会はその後、参加者が「ラジオ聞き酒の会」の活性化の為いろいろな提案をしてゆくことを確認して終了しました。(了)

9年目に入った吉祥寺チャリティイベント「フクシマを思う」

鎌内啓子

2011年3月11日東日本大震災から8年が経ち9年目になった。福島第一原発事故後8年経っても原子力緊急事態宣言「は解除されていない」ということを知っているだろうか。国は「アンダーコントロール」の掛け声の下、来年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、積極的に福島原発事故を忘れさせようとし、マスコミも口をつぐんでいる。政府はエネルギー基本計画として「原発は重要なベースロード電源」と位置づけ、再稼働を目指している。まるであの原発大惨事がなかったような捉え方をしている。

そもそもこの「フクシマを思うシリーズ」を立ちあげるきっかけは、3・11の福島原発事故の衝撃から1ヶ月後、コミュニティラジオ「むさしのFM」の番組「ハッピーウォーター」のパーソナリティだった俳優の金子あいさんから「福島在住の詩人・和合亮一さんが震災後Twitterで詩の礫を呟いている。その言葉は深く胸に突き刺さり、ずっと私を揺さぶり続けている。このことを何とか皆に伝えることは出来ないだろうか」と相談があった。今こそ何かを表現すべき時と、即刻チャリティライヴイベントを企画。「寺は社会貢献が使命」という吉祥寺光専寺住職の快諾を得て、企画を立ててから1ヶ月後の5月16日第1回「フ

クシマを思つて手探りでスタートした。むざむざのFMベテランパーソナリティから「こういうことは続けることに意義があるので頑張つて欲しい」とエールも贈られ、8年間で27回のチャリティライブイベントを実施して来た。毎回様々なテーマ(放射能汚染、避難、復興、農業、教育、報道、事故状況、廃炉など)で講師を迎え、分かりやすくお話をしてくるとともに、金子あいによる震災や原発に関する詩の朗読と、一流ミュージシャンによる素晴らしい演奏の3部構成で実施してきた。1〜2回は演奏と詩の朗読のみだったので以下に3回以降のタイトルと講師を記す。

第3回「フクシマの今を聞く」中手聖一(子供達を放射能から守る福島ネットワーク代表)

第4回「放射能汚染から農業は取り戻せるのか?」チエルノブイリと福島(河田昌東(公分子生物学者))

第5回「どうしたら原発事故のような人災を防ぐことができるのか」日隅一雄(弁護士・ジャーナリスト)

第6回「内部被曝を生き抜く」広島から福島へ(肥田舜太郎(医師))

第7回「東京の秋と核の冬」原子炉の国から来た詩人が、ニッポンの出口戦略を語る「アーサービナード(詩人)

第8回「脱原発で新しい社会システムへ」金子勝(慶應大学経済学部教授)

第9回「子どもたちの未来を創るエネルギー」原発に頼らない社会へ(田中優(環境活動家)

第10回「発信者の時代」一人一人のメッセージが社会を変える(堀潤(ジャーナリスト))

第11回「日本の原発問題の真相」原発訴訟・わたしたちに出る(河合弘之(弁護士))

第12回「4年目、福島の今を聴く」全村遊離の葛尾村からの報告(小島力(詩人)、松本信夫(酪農家)

第13回「三百年の伝統、双葉の銘酒「白富士」復活をかけて新天地シアトルへ」富沢真理(富沢酒造店)

第14回「福島現地からの報告」事故から丸4年、被害の深刻さ(石丸小四郎(双葉地方原発反対同盟代表)

第15回「ドキュメンタリー映画「日本と原発」特別上映会河合弘之(監督・弁護士)

第16回「福島の今」南相馬に生きる(桜井勝延(南相馬市長)

第17回「フクシマと日本の運命」広瀬隆(ノンフィクション作家)

第18回「あれからの☆ラッキーアイランド」福島と演劇の現場から(佐藤茂紀(作家・演出家、成田湊、金子あい。(朗読)

第19回「ハミガキをするように社会の事を考えよう」知りたがり芸人が原発事故を徹底取材(おしどりマコ&ケン(夫婦漫才、ジャーナリスト))

第20回「東日本大震災から6年、何が出来るか」澤地久枝(ノンフィクション作家)

第21回「原発事故のほんとうの事」賠償に明けくれている病になった元東電社員の告白(一井唯史(元東電社員))

第22回「福島の農業の現場から」放射能汚染と向き合う(菅野瑞穂(さぼうのたねカンパニー代表取締役)

第23回「菅元総理が語るリアルな3・11、そして脱原発へ」菅直人(衆議院議員)

第24回「原発難民となった宇宙飛行士」秋山豊寛(元東電社員)と秋山豊寛(宇宙飛行士・元TBS記者)

第25回「福島原発事故による、強制避難・自主避難の今を知る」熊本美彌子、小島ヤス子(原発事故避難者)

第26回「福島原発事故8年目、除染士の行方」今中哲二(京都大学複合原子力科学研究所研

究員

第27回「福島事故と東京オリンピック棄民の国に抗う」小出裕章(元京都大学原子炉実験所助教)

この6月1日に行われた27回目は小出裕章さんの人気もあり、応募者が殺到した。これまでに出演した主な演奏家はウオン・ウィッツアン、山下洋輔、坂田明、小室等、太田憲賢他。これまでの参加者は延べ4,530名、ゲスト講師25名、参加アーティスト33名、寄付総額は1,117,700円(未来の福島)とも基金等)になった。

27回のイベントの中で忘れられないのは第5回の2012年6月10日、講師・日隅一雄さんだった。末期癌で痛み腹部を押さえての鬼気迫る講演に会場の参加者は水を打ったように聞き入った。日隅さんはその2日後に他界された(享年49歳)。

金子あいさんと2人で始めた「フクシマを思うシリーズ」も今では吉祥寺の定番イベントになって来た。今後も「忘れない、風化させない」をモットーに福島の人々に心を寄せ、息の長い地道で粘り強い活動を続けていこうと思っている。(放送人の会ラジオプロジェクト・吉祥寺フクシマを思う実行委員長)

入会のご挨拶〜ラジオは命が命、

鳥谷規

昭和58年、ラジオのニッポン放送に技術枠で入社以来、一度も放送技術部に足を踏み入れること無く、3度の制作部、編成部、イベント部、新規事業推進室、新規ビジネス推進室、ネクストビジネス戦略部、デジタルソリューション部、エンターテインメント開発部と、コンテンツ制作畑を歩み続けて千支もようやく

三巡。

番組&イベント制作、局としてのデジタルプラットフォームの立ち上げ、オーディオブックの制作を中心とするデジタルアーカイブの開発、等、音声コンテンツのみならず、デジタル&イベントまで幅広く手掛ける局内ひとり総合商社として日々業務に邁進させて頂いてきました。

その中でもニッポン放送らしく、チーフディレクターとしてのレギュラーだけでも、明石家さんま、浅香唯、大江千里、大竹まこと、菊池桃子、桑田佳祐、斉藤由貴、笑福亭鶴光、笑福亭鶴瓶、春風亭昇太、白井貴子、谷山浩子、玉置宏、中村雅俊、ビートたけし、三宅浩司、本谷有希子、葉師丸ひろ子、山田邦子、吉幾三、渡辺美里、等々(敬称略・50音順)数えきれない沢山の素晴らしいパーソナリティとお仕事させて頂いた。現在に至っています。ただただ感謝です。

全てがデジタル化される現代ですが、その渦中、アナログでのコンテンツのプロデュースと制作、さらにデジタルの仕組みの構築とコンテンツの制作、イベント面においては音楽フェスを中心とする大会場でのイベントの構築からライブハウスでのライブ制作まで、幅広い面でお仕事させていただいてきた身として、直近の私の課題は音声メディアとデジタル、そしてリアル(イベント)をいかに融合して、お客様であるリスナーに届けていくか?だと思っています。

諸先輩から、ラジオは「命」が命と叩き込まれ、大河ドラマではビートたけしが稀代の「命」の名人五代目古今亭志ん生を演じる今こそ、恩返しの意味も込めて、今一度ラジオにとつて大切なことを伝承する皆様の端に加えていただければ幸いです。

(ニッポン放送エンターテインメント開発部)

第74回放送人句会

平成31年4月9日(火) 於 赤坂・麦屋

出席 星野高士 伊藤視郎、林備後
 鶴橋康夫 中村フミ 佐々木光野 深尾一化
 近藤久二 以上8名
 兼題 遠足、かえる、桜貝、ロケ(業東用語)

「星野高士特選」

遠足は分校までの二里の道 一化
 ままならぬロケの段取り春時雨 一化
 ロケバスの女優春眠ほしいまま 視郎
 どの波に乗ってくるかや桜貝 備後
 かはず鳴くもらひ湯の夜の帰り道 一化
 撮り直しロケの現場の春疾風 光野
 桜貝寡婦に無言の日暮あり 康夫
 ロケ弁を配り終へれば月隴 フミ
 「星野高士選」

桜貝儂き夢に憧るる フミ
 遠足のママボーダーのシャツキャップ 視郎
 ロケバスや後部座席の春シヨール 備後
 さくら貝ハズキルーペをかけて見る 一化
 汐しぶく割れ桜貝塩谷岬 しおやまき 久二
 遠足の母の弁当の重き 光野
 新調の革靴が鳴るお遠足 視郎
 春のロケ自惚れ過信やがてウツ 康夫
 新しき御代祝ぎ跳びぬ初蛙 光野
 遠蛙あれもやがては友となるやも 備後
 大川にひとり遠足ワンカップ フミ

ロケ隊が待機退却春の雨 久二
 蛙の目うしろの方を向いている 視郎

鳥



思ひ出の小箱に桜貝一片 ひら フミ
 死守したき汝が柔肌桜貝 康夫
 初めてのお使ひの道かはず鳴く 一化
 蛙鳴く度にカットのかかるロケ フミ
 波の幕引かれ現るさくら貝 一化
 ハザードの蛙鳴き止む打ち直し 光野
 桜貝拾う彼女のふくら唇 視郎
 かへる鳴く土偶垂乳根首のなき 康夫

「会員互選」

蛙には蛙の歩幅クワックワックワ 康夫
 腕ひとつロケのカメラに風光る 光野
 利根河原剣劇ロケにおぼろ月 視郎
 いわき浜欠け桜貝汐しぶく 久二
 遠足のリュックの底に雨合羽 久二
 立つ春の風に乗る換えロケの旅 康夫
 遠足やつなぐ手の柔き想ひ出 一化

抱きついて泡だらけなるモリガエル 視郎
 桜貝海に放ちて帰りけり 備後
 赫土に蛙はひとり目に涙 久二
 潮騒のララバイ聞ゆ桜貝 フミ
 ほろ酔いに寄り添ふ旅の遠蛙 フミ
 轍道廻す双眸青蛙 久二

「選者吟」

星野 高士
 さくら貝愁ひの色も和賀江島
 遠富士を仰ぎつ拾ふ桜貝
 遠足の小雨に烟る高尾山
 遠足の子の下校子とすれ違ふ
 ロケ弁の箸にやさしき鹿尾菜かな
 蛙鳴く声は遠くに安ホテル
 ロケバスの最前席や春眠し

第75回放送人句会

令和元年6月3日(月) ◇於 赤坂・麦屋
 出席 伊藤視郎 林備後 佐々木光野
 深尾一化 近藤久二 以上5名
 不在投句 鶴橋康夫
 兼題 菜種梅雨 夏帽子 苺 スタジオ(業
 界用語)

野いちごと映画の記憶昼下がり 久二
 スタジオの空調強く夏に入る 視郎
 夏帽子牧場の少女絵の具箱 光野
 背伸びして夏帽子振る少女かな 視郎
 歩けない犬をカートに夏帽子 康夫
 庭の妻見切り苺のジャムを煮る 光野
 菜種梅雨遠出を止めて街暮し 久二
 チュチュに汗スタジオ出口夏陽浴ぶ 久二



外野席並んで座る夏帽子 視郎
 定置網群れ黙々と菜種梅雨 久二
 大粒はつい遠慮する苺かな 視郎
 初島までは二十五分よ夏帽子 備後
 久能山日本ラインと来て苺 備後
 うづしほの海に飛びたる夏帽子 備後
 スタジオの重き扉や梅雨に入る 一化
 燈台に登り夏帽子置く視界 久二
 人妻になりたき女や苺喰う 康夫
 頬杖の君のよこがほ菜種梅雨 光野
 レース終えおけら街道夏帽子 久二
 菜種梅雨無性に恋し妻の笑み 康夫
 スタジオの「時間ですよ」の裸かな 視郎

次回放送人句会

○令和元年8月6日(火) 17時半頃から
 投句締切18時半
 ○会場 赤坂・麦屋
 ○兼題 初秋 七夕一切 終戦の日
 ピンスポ(業東用語)

- 【あ】 藍澤幸久 相
石井ふく子 石橋映
井上佳子 井上良介
遠藤利男 遠藤雅
岡室美奈子 岡本勉
片岡敬司 加藤洋
川口健一 河邑厚徳
- 【く】 工藤卓男 工藤
小林和男 小山帥人
佐々木彰 佐々木
静永純一 志津木
菅野嘉則 杉田成
- 【た】 高島秀之 高
【ち】 千葉邦彦 【つ
【と】 東城祐司 堂
中島僚 中島由貴
並木章 【に】 新村
【は】 萩原豊 林
藤田知久 藤久ミネ
【み】 三上義智
【む】 村上光一
山鹿達也 山崎隆
【わ】 若松央樹
- 【賛助会員】 日本

新入会員紹介 (入会日順・敬称略)

林宣昭 (はやしせんしょう) 59年12月生
 (株)文化放送↓(株)クロダイルカンパニー↓(株)
 ナイスビート。現在ナイスビート代表。文化放
 送で小林克也、千倉真理、中森明菜などの番組
 を担当。独立後FM・Nacks、東京FM、
 FM802、ZipFM、InterFM、b
 ayFM、FM横浜、LoveFM、Cros
 s FMなどで番組制作、現在に至る。

伊藤博文 (いとうひろふみ) 54年6月生。
 79年NHK入局。89年Nスベ「驚異の小宇宙
 人体」日本テレビ技術賞受賞。90年、モント
 リオール・アニメ・フェスティバルで1位入賞
 00年「PANNYA」で東京フアンタスティ
 ック映画祭グランプリ、04年(株)モルフォを東
 大学生らと設立。08年映像学会理事。
 現在(株)ワイズ・フルピクチャーズ代表

鳥谷規 (とりたにただし) 59年7月生。
 ニッポン放送で各種番組、担当したのは明石
 家さんま、大江千里、大竹まこと、桑田佳祐、
 斎藤由貴、笑福亭鶴光、笑福亭鶴瓶、春風亭昇
 太、谷山浩子、玉置宏、中村雅俊、ビートたけ
 し、三宅裕司、本谷有希子、薬師丸ひろ子、山
 田邦子、吉幾三、渡辺美里 他多数。

大類なぎさ (おおるいなぎさ) 61年6月生。
 山形県生まれ。明治大学法学部卒。法律事務所
 勤務、業界紙の記者、編集の経験あり。機織り
 で山形県総合美術展工芸部門で3年連続入選
 現在、総務省情報公開個人情報保護審査会事
 務局、秘書、山形放送の関連会社・東北映音の
 社長大類啓さんの娘さんで、大類啓さんが会
 報に連載を書いていた縁が亡くなった後も続

き、今回の入会になった

編集後記▼令和最初の会報は放送人グランプリの特集です。写真撮影では藤田知久さん、編集にあたってはDropboxを使って菅野高至さんの活躍がありました。大量データ送受信の宅ふあいる便が使えなくて困っていたところで、Dropboxは助かりました▼

六月が戦車に轢き殺されている／六月に夜明けはなくて銃連射／半袖のシャツをはだけて射殺さる／鎮庄の戦車槐(えんじゅ)の花の下／平成元年天安門事件をテレビで見つ詠んだ句です。令和になって平成回顧の特集が続く、6月に入って天安門事件の報道が続いています▼平成元年、在日の中国人留学生からは「当局は映像を証拠に逮捕処刑するから、中国政府に事件の映像を渡さないでくれ」と新聞、放送へ要請がありました。「取材した映像は報道目的以外には使わない。それがメディアが言論表現の自由を守るルールでありマナーだと考えている」と新聞・放送は答えました▼このルール、マナーと外部の事前検閲・チェックを許さないルールは小さなこの会の会報でも守りたいと思います(視)

第12回「ラジオ聞き酒の会」

拝啓スタンダップコメディからあなたへラジオからの使者
 たへラジオからの使者
 毎日を生きて戦つ「あなた」へ賞悟を
 持つて「笑い」と「言葉」を届けます

日時 6月5日 18時30分開演

会場 紀伊国屋ホール

主催 スタンダップコメディ協会

共催 ニッポン放送

企画 清水宏 松岡昇 鳥谷規

*先着10名様「招待」します

*ラジオ聞き酒の会 担当清水まで

